秀吉永き夜のねざめに、昨友は今日の怨讎と成、前榮は後衰と移り易りぬ、誰有て期來日乎、厚恩を報ぜずして、衰ふる身となりなば、噬臍とも益なるかべし、

〔甲陽軍鑑二品第七〕上手になきは必弟子をとる、弟子をとれば、武道のたしなみとはいはず、弓いる人、鐵鉋打、馬のり、兵法つかひなど、名を付て、如形覺有人をも、傍輩ゑみがたぎとて、人は人を偏執するものにて、わきの事へかゝり、武邊者とはいはざるものなれば、なにも上手になりても、弟子とる事は、さらにせんなき事也、

〔漢語大和故事一〕會ハ別ノ始ノ略○中　白氏文集曰、合者離之始、樂兮憂所伏トイヘリ、

〔徒然草上〕人のなき跡ばかりかなしきはなし、略○中年月過ても、露忘るゝとにはあらねど、さるものは日々にうとしといへることなれば、さはいへど、そのきはばかりは覺えぬにや、

〔太閤記二〕秀吉歳暮御禮之事

國守の手廻よきと云は、人を知より大なるはなし、此外宜しき事あらば、聞まほしと仰信長○織田られければ、家老衆奉り、私言けるは、三つ子に髭のはへたる如きことを宣ふ物かな、仰られし品々は金言なれ共、德行は其十分一もあるまじき物をとて、悔つゝ、立出にけり、

〔諺草二遠〕諺　老ては子に從ふ　儀禮曰、婦人有三從之義、無專一之道、故未嫁從父、既嫁從夫、夫死從長子、故父者子之天也、夫者妻之天也、略○註　老ては子に從ふと云諺こゝに出でたり、是母の事にして、父の專子に從ふと云義なし、

〔昨日波今日能物語〕ある人申されけるは、わらべを風の子と申は、なにとしたる事ぞとふしんしければ、こざかしきもの申やう、フウフの間の子なれば、風フウの子といふとこたへた、略○下

〔性靈集四〕獻梵字幷雜文表

諺曰、奴口甘、郎舌甜、敢因斯義、欲獻久矣、然猶狼藉汚穢、還恐觸塵聖眼、微誠潛達、先聞于天、伏奉布勢